

障がいのある方が
活躍できる社会へ

国民民主党 公認

伊藤しゅん

難病・障がい当事者

伊藤しゅん **40**歳 プロフィール

1986年松山市出身・整体師 妻と子ども2人
松山市立椿小学校、椿中学校
松山中央高校卒業
松山大学経営学部経営学科卒業
有限会社イープレスプロモーション(出版社)
学生と社会人をつなぐ団体「EGS」を設立
西日本豪雨災害ボランティア活動に参加
河原医療福祉専門学校 柔道整復師卒業
「お節介いとうしゅん治療院」を開業
国民民主党愛媛県連 障がい者政策委員就任

障がい者の私が政治家を目指す理由

伊藤しゅんの歩み



私はこれまで、出版社の傍ら、学生と社会人をつなぐ活動や被災地支援、地域のでのボランティア、居場所になるコミュニティづくりに心血を注いできました。しかし31歳の時、指定難病「脊髄小脳変性症」と診断され、人生が一変します。思うように動かない体への戸惑い。結婚を機に、障がい者雇用の壁や経済的不安に直面しました。当事者になって初めて、社会にある「見えない壁」に突き当たり自信を失う日々でした。

そんな私を動かしたのは、難病カフェや発信を通じ出会った方々の声です。「制度が届かない」「将来が不安」。そこには、市政に届いていない切実な困りごとが溢れていました。

松山市にはまだ、障がい当事者の議員がいません。

障がいがある人もない人も、同じテーブルで街づくりを語り合える。そんな当たり前の景色を松山から作りたい。当事者としての痛みを力に変え、現場の声が届く「血の通った市政」を実現するため、私は挑戦を決意しました。



この現場の経験×当事者の視点で、3つの施策に取り組みます。



1 障がい者の防災対策

障がい者は災害時に避難をためらうことが多く、ハザードマップなどに配慮が必要です。災害時の障がい者を、地域で支え合う体制の提案をします。

- 「地域共助マップ」を作成
障がいの特性や困りごとを共有
- 「ゆるやか避難訓練」を実施
障がい者・高齢者・子どもも参加可能
- 「助け合いカード」の導入
顔写真・連絡先・支援内容を記載

2 障がい者の就労対策

松山市の障がい者の平均月収は、全国より約10万円低く、安定して働くことが困難。生きがいを失わないよう、就労場所や時間に柔軟性が必要です。

- 「ゆるやか就労」制度の導入
企業に柔軟な就労モデルを紹介
- 働く当事者の語り場の設置
理解と雇用の促進につなげる
- 福祉×地元企業マッチング
在宅でも活躍できる技術支援

3 障がい者のコミュニティ

障がいにより外出が減少し、人とのつながりが薄れる中、孤立して支援が届かないケースが多く見られます。

- 当事者カフェ・サロンの設置
多様な障がいに対応した交流場所を設置
- 当事者体験イベントの実施
地域イベントに全盲・片麻痺体験など
- 移動支援やバリアフリーの促進
障がい者の参加を促進します



— 難病と診断される —



国民民主党
Democratic Party For the People

いとうしゅん後援会事務所

愛媛県松山市萱町1丁目1-5 ドリームスクエアかやまち



伊藤しゅん

検索



活動配信中です